



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)  
ウクライナ戦争深読みシリーズ #4  
—エゼキエル戦争の導火線—

2023/02/27

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は**ウクライナ戦争深読みシリーズ**の4回目、最終回です。前回の動画で「ウクライナ戦争は長期化する。年内に終わることはまず期待できない」と申しあげました。プーチン大統領はこの戦争を諦めるつもりは全くない。同時にウクライナ側も、これほど酷いことをしたロシアの支配下に入ることをだれも望まない。双方ともやめるつもりがありません。ですから長期化するんです。

しかし、いかなる戦争も永遠に続くことはない。いつかは終わります。問題はその終わり方なんです。そこで、今日は思考実験をしたいと思います。もしプーチン大統領が、敗戦色濃厚の状態での権力の座から去らざるをえなくなった時、ロシア国内で何が起こるのだろうか。仮定の話として、このことを考えたいのです。

なぜかという、今年1月8日の『ニュース ウィーク』で、“プーチン病気説”の記事がまたゾロゾロ出て来ていたからです。特にブレンダン・コールが、プーチンの体調について詳しい記事を記載しました。要約すると、ウクライナ軍情報機関のトップが「プーチン大統領は現在癌の末期で、死期が近付いている」と言うんですね。「その根拠を長い時間インタビューで聞いた」と言っているのです。

ウクライナはロシアと戦っている当事者なので、心理戦の一環として、そう言っているのかもしれませんが。しかしこの記事を読むと、そう言っているのはウクライナの軍情報機関のトップだけでなく、各国の様々な軍の情報分析の中で「プーチンは病気に罹っているのではないか。」これが飛び交っていると言うのです。

その中の一つに、デンマーク軍の軍情報部で、ロシア担当を担っている匿名者の分析が紹介されていました。彼の分析によると「プーチン大統領は末期症状の疾病に罹っていることはない。だが、彼の顔は明らかにムーンフェイスだ。」ムーンフェイスは満月みたいに顔が丸くなっている状態で、ステロイドホルモン治療を受けている時の典型的な副作用の一つです。大人でも子供でもそうなります。

また、「ステロイドホルモン治療の副作用には誇大妄想がある。もしこの見立てが正しいなら、ウクライナ侵攻におけるプーチン大統領の軽率さが説明できる。大量のステロイドホルモンを投入しなければならぬ何らかの病気に罹っていた、罹っていると考えられる。」

その真偽のほどは分かりませんが、仮にそれが真実だとしましょう。戦争の途中で、何らかの原因で、プーチン大統領が権力の座から降りなければならなくなったとします。原因の中には病気もあります。勝てない状態でズルズルとロシアの体力が削がれていく中、敗戦色濃厚な状況でプーチンが権力の座から降りてしまった。

その場合、ロシア国内で何が起こるでしょうか。権力闘争です。

ロシアの権力構造を見ると、その闘争は三つ巴になることが予測されます。

①プーチンと繋がることで、大きな既得権を持っているグループ。

彼らはこの体制の維持を望むでしょう。プーチンの忠実な部下たちは、プーチンが亡くなった後も、何とか自分たちの既得権を守ろうと動くでしょう。

②プーチンに反対しているグループが2つ

●プーチン以上に極右、ナショナリストの考えを持っている人たち。

彼らは戦争継続を望んでいます。プーチンの戦い方を甘いと言い、核兵器の使用を公然と主張するグループ。

●プーチン政権から弾圧されてきたグループ。

彼らは戦争終結を望んでいます。ロシアがまともな民主国家になることを望み、ロシアの改革を求めるグループ。押さえつけられてきたこのグループは、その張本人のプーチンがいなくなったことを、すごいチャンスと捉えるかもしれません。

この三つ巴の権力闘争の結果、どのグループが勝つのか誰も分かりません。

一つははっきりしているのは、誰が勝ってもロシアは衰退する。弱体化する。混乱状態に入ります。混乱状態になり、機能不全の経済状態に対して、国民があちこちでデモをするかもしれません。

国民のデモだけではありません。実はロシアはロシア連邦なんですね。

ロシア連邦共和国の中に、様々な少数民族の自治共和国があるんです。

その中には、例えばタタール・チェチェン・ダゲスタン・サハなどのイスラムの国々もあります。

プーチンの中央集権の力がグンと弱まった時、それらの国が自分たちの自治権拡大について自己主張するのは十分にありえることだと思います。

そうなって行った時、もはやウクライナとの戦争にかまけている余裕はありません。

ウクライナとの戦争は一旦手打ちの状態にして、国内の争乱を抑えるため、またしても別の紛争に国力を使うことになると思います。これがロシアを弱体化させるのは、火を見るよりも明らかです。ロシアが何とか生き延びようとして内乱を抑えることが出来たとしても、国力の無駄遣いによって非常に弱体化することでしょう。

そして、弱体化したロシアが“国際情勢を生き残るために、どのようなサバイバルの選択肢があるか”を考えた時、その1つは中国に従属する道です。もしロシアが中国に従属する道を取るなら、その瞬間に中国は非常に強大化する。これは火を見るよりも明らかです。

もちろん、今申し上げていることは最悪のシナリオです。そして思考実験です。

必ずこうなると言っているわけではありません。

今の国際情勢の中であらゆる可能性を考えておく必要があり、その1つにロシアの衰退と、そこからの大混乱が十分にありえることを予め想定しておく。これも非常に大切だと思うんですね。

ところで、第一次世界大戦の前まで、ヨーロッパには大帝国、4つの大帝国がひしめいていました。

オーストリア・ハンガリー帝国。ドイツ帝国。オスマン帝国。ロシア帝国の4つ。

第一次世界大戦が終わった後、この4つの大帝国は全部滅びました。敗北側にいたんですね。

ロシアについては、ロシア国内で「こんな戦争をいつまでやってるんだ！」と“パン寄こせ運動”、日本なら米騒動ですよ。それを契機に、ロシア革命・共産革命にまで発展してしまったのです。

つまり、1つの戦争が国の状態を一変させてしまったんですね。

そして、この第一次世界大戦が国際情勢の力学を完全に変えてしまったために、第二次世界大戦というもっと悲惨な戦争に道を開いた。第一次世界大戦は第二次世界大戦の導火線になったのです。

現在繰り広げられているウクライナ戦争は、エゼキエル戦争の導火線になる可能性が非常に高いと思います。エゼキエル戦争が起こる条件がいくつかあるのですが、その1つは、ロシアが顎に鉤を掛けられる状態。ロシアが困窮する状態。困窮しているので、餌にパクついてしまうような状態になっていることです。

今回のウクライナ戦争は、エゼキエル戦争の前哨戦に繋がっている可能性が非常に高いと思います。終末時代の大きなしるしの1つは、紛れもなくエゼキエル戦争です。

そのエゼキエル戦争に直結するような事態が、今私たちの周りに起きているのではないかと私は見えています。

ということで、ますます国際情勢から目を離すことが出来ない時代に入っていると思います。

これからも聖書預言の観点で国際情勢を解説していきますので、よろしければお付き合いください。チャンネル登録もお願いします。

ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！